



北海道大学

# 「問題解決指向型研究倫理」

北海道大学大学院文学研究科 眞嶋俊造

# 学習目標

- 問題解決指向型研究倫理を実践する手段としての倫理テストについて、その意義と重要性を説明できる
- 倫理テストの種類を挙げられる
- 倫理テストの運用手順を説明できる



# アウトライン

## Introduction – 学習目標

### 1 はじめに

- なぜ研究倫理なのか
- これまでの状況と背景
- 問題解決指向型研究倫理

### 2 – 1 「倫理テスト」の種類と運用

- 「倫理テスト」の運用 手順①②

### 2 – 2 「倫理テスト」の運用

- 問題点Ⅰ 手順③④⑤⑥

### 2 – 3 「倫理テスト」の運用

- 問題点Ⅱ 手順③④⑤⑥

### 3 まとめ

- おわりに 改めて研究倫理とは
- まとめ

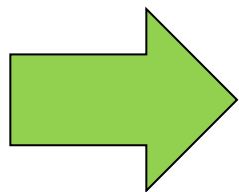


# これまでの状況と背景

- 研究倫理教育は始まったばかり
- 研究倫理関連の図書が刊行されている



実際に倫理問題の解決に資するか？  
実践的か？



「問題解決指向型研究倫理」



# 「問題解決指向型研究倫理」とは

- マニュアルではなくドリル
- 倫理ジレンマを事例によって「疑似体験」
- 倫理テストによって分析・検討、解決を目指す
- 最悪の選択を避けるための知見と座った腹を養う



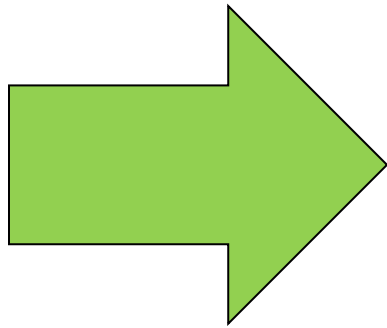
# 倫理テストとは

ある行為が行われた場合に、何らかの倫理的価値が損なわれていないかをチェックするための問い



# 問題解決指向型研究倫理の意義と重要性

倫理テストを用いて、仮想事例を分析  
採りうる行為を倫理テストにかけ、時系列に並べる



- 最善の行為や次善の行為を導き出す
- 最悪の選択肢を避ける
- 自分自身で解決方法を導き出す



# 「倫理テスト」の種類

- **普遍化可能性テスト**

「もしみんなが同じようにその行為をしたらどうなるか？」

- **公開可能性テスト**

「その行為は同僚や上司や社会一般に公開できるか？」

- **危害防止テスト**

「その行為は自他に危害を与えるものであるか？」

- **人間の尊厳テスト**

「その行為は自他の尊厳を傷つけるものであるか？」

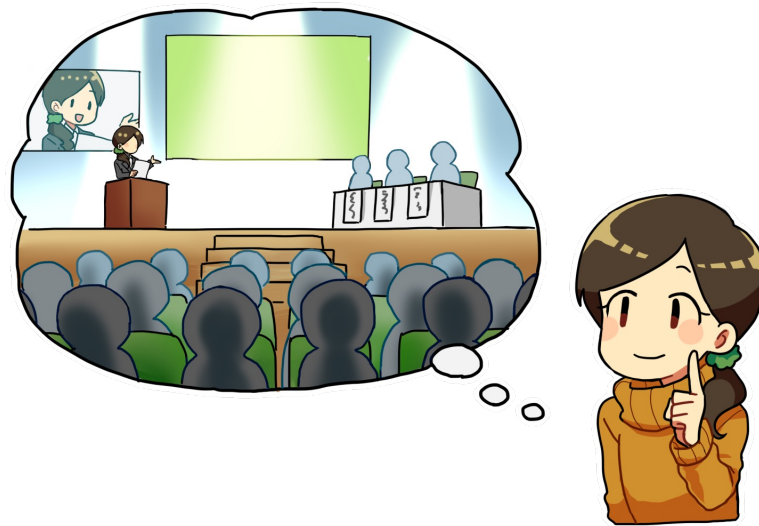




# 「キャリアと研究費」



大学院生のムラヤマは、非常に名誉ある国際学会での討議でパネリストとして登壇することが決まった。このパネルに登壇することは世界水準の研究者として認知されるための登竜門とされており、実際に国内の著名な研究者の多くは過去にそこで登壇した経歴を持っている。これは、ムラヤマが研究者としてのキャリアを飛躍的に向上させるための唯一無二のチャンスである。



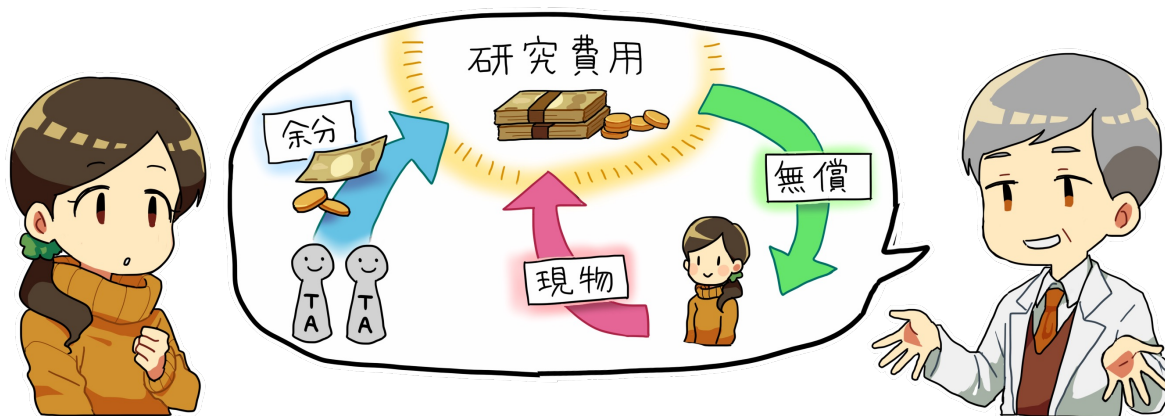
しかし、ムラヤマは、いくつかの問題を抱えている。討議内容は「未発表のオリジナルであること」が条件とされているが、あいにく手元にそのようなものがない。確かに、地方学会での研究発表の内容や、大学紀要に他の研究者と共同執筆した論文の内容でお茶を濁すことは、ひょっとしたら実行できるかもしれない。しかし、悩んでいる時間はない。予稿提出の締め切りは3日後で、電子システムで一元的に受け付けるため締め切りの延長はできないからである。



また、別の問題もある。国際学会は国際線の繁忙期にあたる時期に海外で開催され、また学会参加費は大学院生には工面しきれないほど高い。確かに、旅費や学会参加費の捻出にあてられそうな研究経費をムラヤマは一つだけ使うことができる。しかし、予定されている国際学会での発表内容は、その研究費が指定する研究目的や研究内容とはどう考えても全く関係がない。



隣の研究室の准教授であるカワシマに相談したところ、ムラヤマの事情を察したカワシマは、自分が研究分担者として参加している大型研究費を用いることを提案した。その提案によれば、学部生のアシスタント(Teaching Assistant)に「書類上少し余分に働いてもらった」分の謝金を研究室の金庫に還流させて貯めてある「研究経費」を無償で貸してくれるという。貸した同額分を、ムラヤマの研究経費を用いて消耗品扱いで購入した現物で返してくれればよいというのである。この「取引」もまた、実行不可能ではないかもしれない。



さて、ムラヤマは、この状況でどうすべき（どうすることが倫理的に許容され、また倫理的に要請される）だろうか？また、あなたがムラヤマと同じ立場にいたとしたら、どうするだろうか？

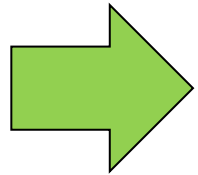


眞嶋俊造、奥田太郎、河野哲也（共編）『人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック』（慶應義塾大学出版会、2015）、113-114ページ。



# 「倫理テスト」の運用手順

- ①問題の所在の同定
- ②ステークホルダーの確認
- ③できるだけ多くのとりうる行為を挙げる
- ④とりうる行為についてリアリティチェック
- ⑤全ての行為を倫理テストにかける
- ⑥それらの行為を時系列に並べ優先順位をつける



「常識的」な解決法を自分で導き出せることが重要





# 手順①②

## ①問題の所在の同定

問題点Ⅰ 論文がない

問題点Ⅱ 金がない

## ②ステークホルダー・事実関係の確認

ムラヤマ、カワシマ准教授、ムラヤマの指導教員、同僚、  
大学、社会・・・



### ③できるだけ多くの採りうる行為を挙げる(問題点Ⅰ)

- 教授にどうしたらよいか相談する
- 研究室の先輩にどうしたらよいか相談する
- 学会窓口に提出期限延長できないか交渉する
- がんばって新しいテーマで論文を書く
- 既存論文のアウトラインでお茶を濁す
- 他人の論文をコピーして論文をでっちあげる
- 学会参加を取りやめる



## ④リアリティ・チェックにかける(問題点Ⅰ)

- 教授にどうしたらよいか相談する . . . . . ○
- 研究室の先輩にどうしたらよいか相談する . . . ○
- 学会窓口に提出期限延長できないか交渉する . . ○
- がんばって新しいテーマで論文を書く . . . . . ○
- 既存論文のアウトラインでお茶を濁す . . . . . ○
- 他人の論文をコピーして論文をでっちあげる . . ○
- 学会参加を取りやめる . . . . . ○



## ⑤行為を倫理テストにかける(問題点Ⅰ)

	普遍化可能性	公開可能性	危害防止	人間の尊厳	
教授に相談	○	○	○	○	4/4
先輩に相談	○	○	○	○	4/4
学会窓口に交渉	△	○	△	○	3/4
論文を書く	○	○	○	○	4/4
お茶を濁す	×	△	○	△	2/4
コピペ論文	×	研究不正！			0/4
参加取りやめ	○	○	○	○	4/4



## ⑥行為を時系列順に並べ、優先順をつける(問題点Ⅰ)

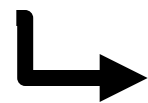
ステージ1

ステージ2

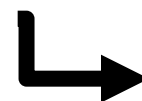
ステージ3

教授に相談

先輩に相談



学会窓口に交渉



参加取りやめ



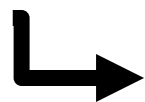
## ⑥行為を時系列順に並べ、優先順をつける(問題点Ⅰ)

ステージ1

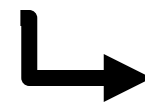
ステージ2

ステージ3

論文を書く



お茶を濁す



参加取りやめ



### ③できるだけ多くの採りうる行為を挙げる(問題点Ⅱ)

- 教授にどうしたらよいか相談する
- 親にお金を借りる
- 消費者金融にお金を借りる
- 奨学金を受給できないか探してみる
- カンパを募る
- 准教授と取引する
- 学会窓口に旅費補助がないか相談する
- 会場に無理やりいく
- 博打をうってお金を稼ぐ



## ④リアルティ・チェックにかける(問題点Ⅱ)

- 教授にどうしたらよいか相談する . . . . . ○
- 親にお金を借りる . . . . . ○
- 消費者金融にお金を借りる . . . . . ○
- 奨学金を受給できないか探してみる . . . . . ○
- カンパを募る . . . . . ○
- 准教授と取引する . . . . . ○
- 学会窓口に旅費補助がないか相談する . . . . . ○
- 会場に無理やりいく . . . . . ✕
- 博打をうってお金を稼ぐ . . . . . ✕





## ⑤行為を倫理テストにかける(問題点Ⅱ)

	普遍化可能性	公開可能性	危害防止	人間の尊厳	
教授に相談	○	○	○	○	4/4
借金(親)	○	○	△	○	3.5/4
借金(消費者金融)	×	○	△	○	2.5/4
奨学金	○	○	○	○	4/4
カンパを募る	○	○	△	○	3.5/4
准教授と取引	×	研究不正！			0/4
学会窓口に相談	○	○	○	○	4/4



## ⑥行為を時系列順に並べ、優先順をつける(問題点Ⅱ)

ステージ1


教授に相談

学会窓口に相談

ステージ2

借金(親)  
カンパ

ステージ3

借金(消費者金融) 

→ ステージ4 参加取りやめ



# 「倫理テスト」を用いる問題解決指向型研究倫理の「うまみ」

- この倫理テストは「完成版」ではない
- 最も効率的・効果的なバージョンを使うことは問題ない
  - より専門性の高い分野では「専門家テスト」を加えても

## 倫理テストの本質的な「うまみ」

皆で改善し、よりよいものを作っていくことができること



# 研究倫理は実践的

- 問題解決指向型研究倫理は、倫理ジレンマの解決に資するような枠組みを提示
- 2つの指向性
  - 「内部指向性」：研究者集団内での自律
  - 「外部指向性」：研究者集団による社会に対するマニフェスト



# 改めて研究倫理とは

- 研究を行うものが身につけておかなければならない  
「自己管理術」
- 最悪の行いを避けるための「職務上の処世術」



# まとめ1 / 3

- 問題解決指向型研究倫理を実践する手段としての倫理テストの意義と重要
  - 行為を時系列に並べることによって、初動で採るべき最善の行為、次善の行為を自分で明らかにすることができる
  - 最悪の選択肢を避けることができる



- 倫理テスト
  - 普遍可能性テスト
  - 公開可能性テスト
  - 危害防止テスト
  - 人間の尊厳テストなど



# まとめ3 / 3

- 倫理テストの手順

1. 事例の倫理問題の所在を明らかにする
2. ステークホルダーを確認する
3. 採りうる行為をできるだけ多く挙げる
4. リアリティチェック
5. 倫理テストにかける
6. 時系列に並べ、優先順位をつける





# 参考文献

- オムニバス技術者倫理研究会（編）『オムニバス技術者倫理第2版』（共立出版、2015年）
- 眞嶋俊造、奥田太郎、河野哲也（共編）『人文・社会科学のための研究倫理』（慶應義塾大学出版会、2015年）

